

# 第1部 2010年度第2四半期決算概要 及び 2010年度業績予想

副社長 木下幸雄

# 2010年度第2四半期 業績サマリー

単位: 億円

## ■ ポイント

### (1) 受注高

- ・前年同期比大幅増
- ・機械コンポーネント、精密機械、建設機械で中国・アジア需要が牽引

### (2) 売上高

- ・精密機械、建設機械で伸びるも産業機械、船舶、環境・プラントが減少し、ほぼ横ばい
- ・船舶引渡しが5隻から4隻に1隻減少

### (3) 営業利益

- ・機械コンポーネント、精密機械、建設機械で大幅改善

### (4) 純利益

- ・営業利益改善により大幅増

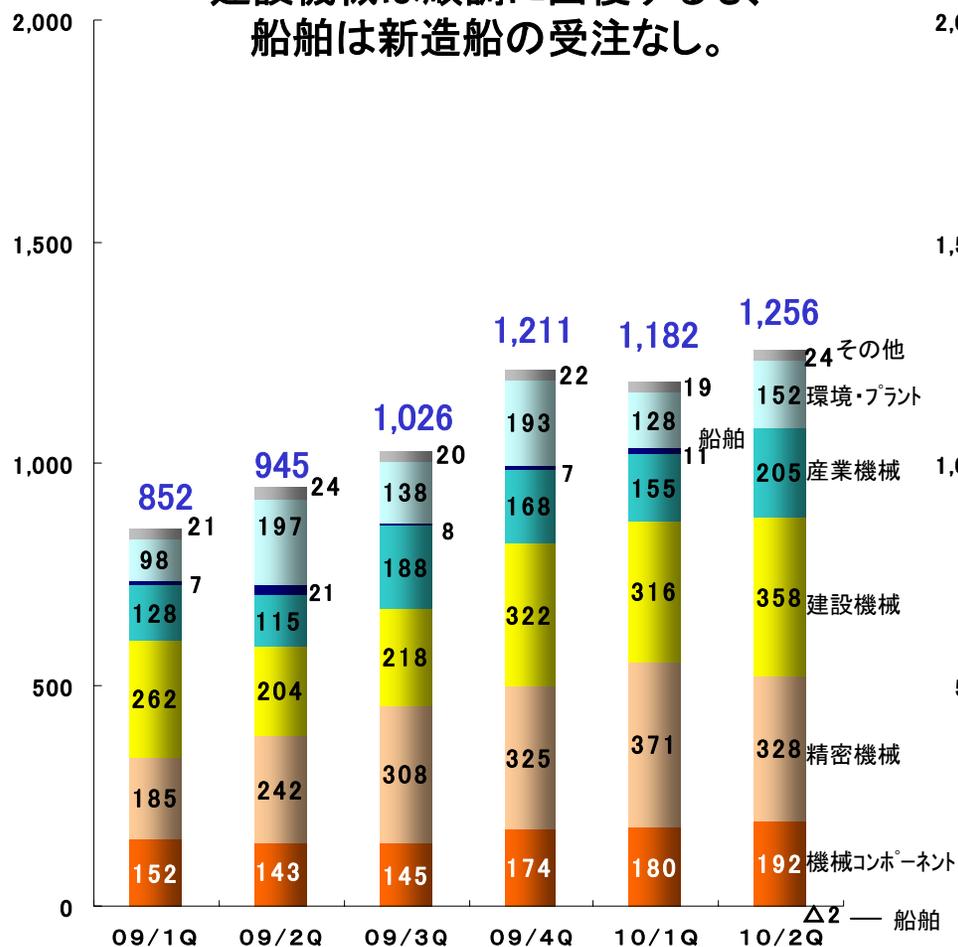
	2010/上	2009/上	増減
受注高	2,438	1,797	641
売上高	2,519	2,517	3
営業利益	163	82	81
営業利益率	6.5%	3.3%	3.2%
経常利益	148	73	76
経常利益率	5.9%	2.9%	3.0%
特別損益	△5	△2	△3
純利益	79	13	66
純利益率	3.1%	0.5%	2.6%

# 受注・売上 四半期推移

単位: 億円

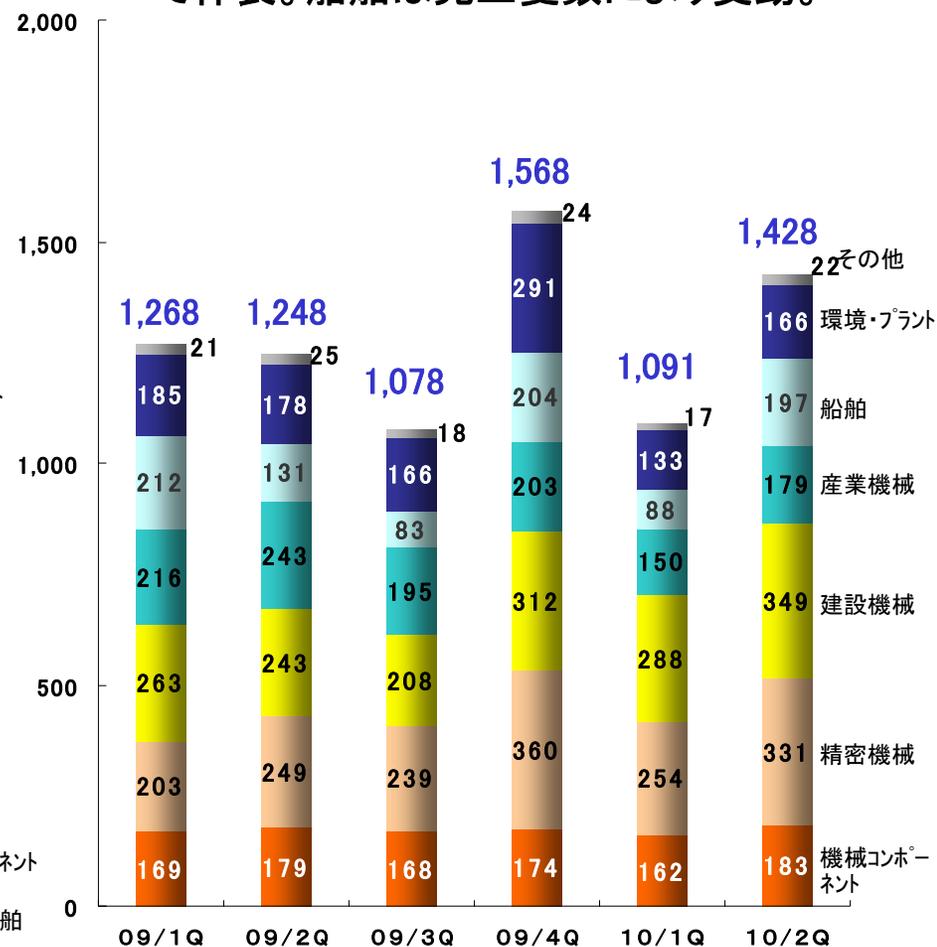
## 受注高

機械コンポーネント、精密機械、建設機械は順調に回復するも、船舶は新造船の受注なし。



## 売上高

機械コンポーネント、精密機械、建設機械で伸長。船舶は売上隻数により変動。



# セグメント別営業利益

単位: 億円

## ■ 対前年度比較

すべてのセグメントで黒字化

＜機械コンポーネント＞

PTCはコストダウンにより好転。

＜精密機械＞

射出成形機は中国・アジアの需要増とコストダウンにより好転。デマーク社も改善。

＜建設機械＞

油圧ショベルが中国における販売台数大幅増により好転。

＜産業機械＞

売上減少により減益。

＜船舶＞

引渡し隻数は1隻減少するも、コストダウンにより改善。

＜環境・プラント＞

環境、鉄構機器とも売上高減少により悪化。

## ■ 対予想比較

建設機械は需要増により好転。

精密機械、産業機械、船舶はコストダウンにより好転。

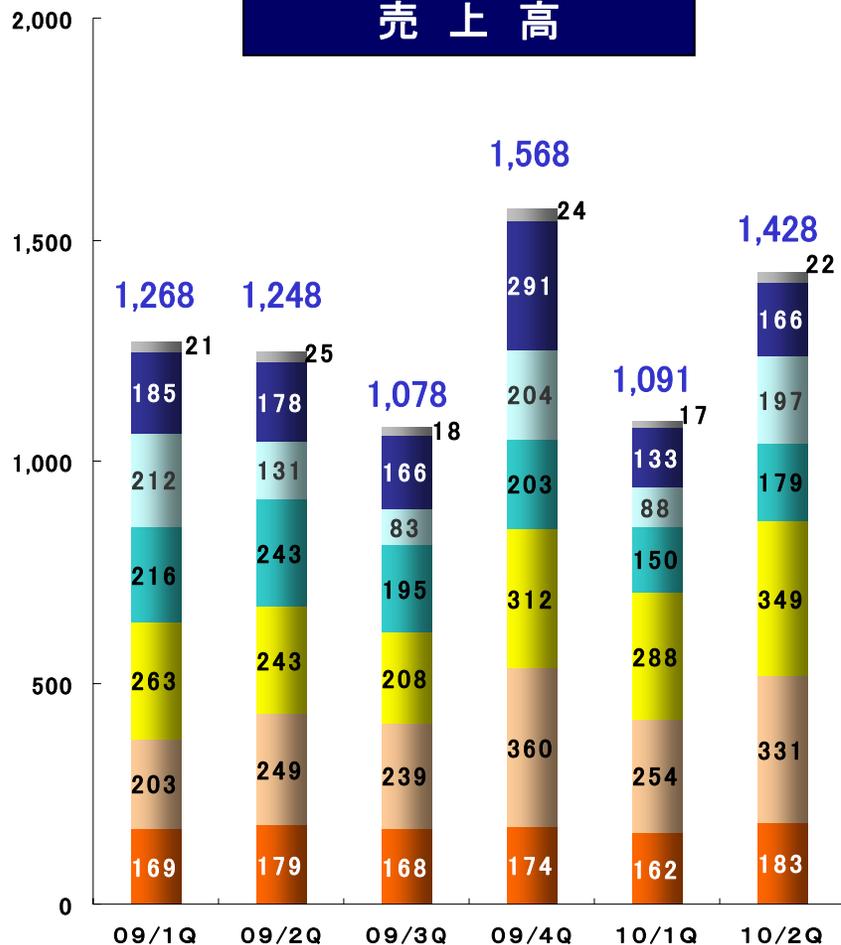
	2010/上	2009/上	増減
機械コンポーネント	16	△8	24
精密機械	17	△42	59
建設機械	31	△3	34
産業機械	54	76	△22
船舶	32	25	7
環境・プラント	6	27	△21
その他	7	6	1
計	163	82	81

# 営業利益 推移

全セグメント黒字化により、前年同期比大幅好転。

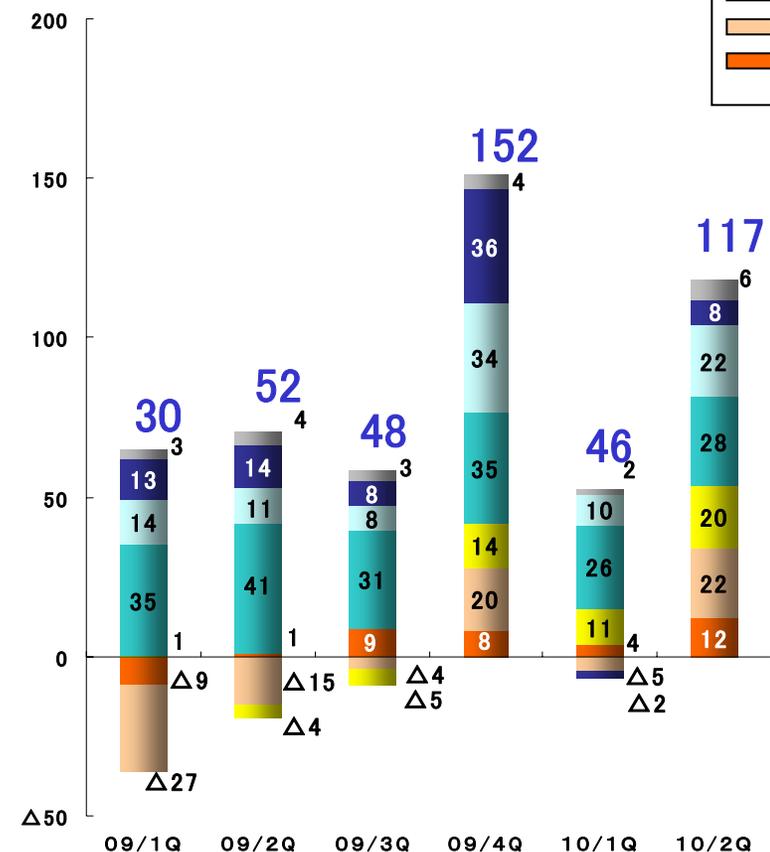
単位：億円

## 売上高

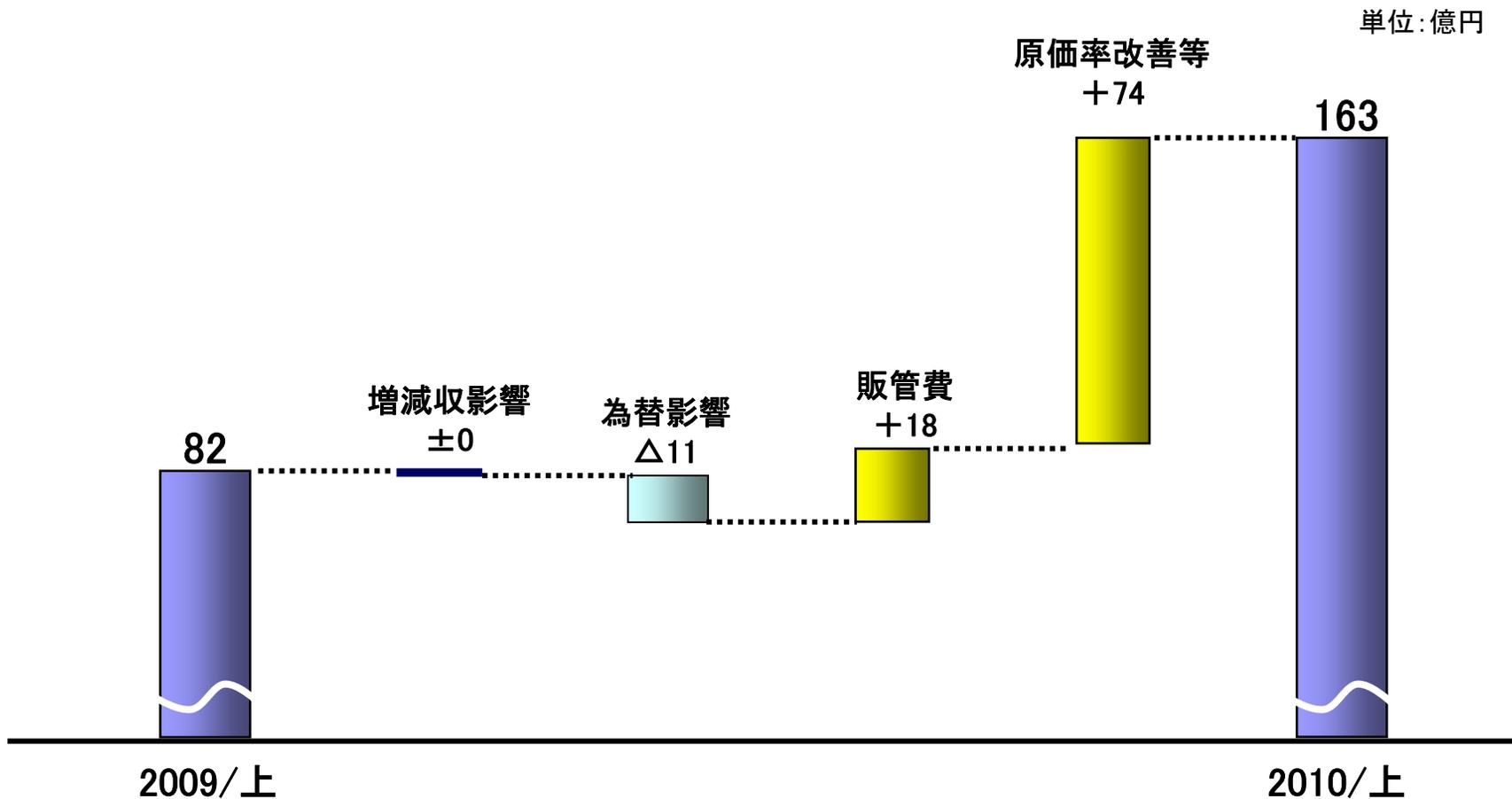


## 営業利益

単位：億円



# 營業利益增減分析(2009/上—2010/上)



# 連結貸借対照表

単位:億円

	2010/9末	2010/3末	増減		2010/9末	2010/3末	増減
<b>流動資産</b>	<b>3,264</b>	<b>3,398</b>	<b>△134</b>	<b>負債</b>	<b>3,331</b>	<b>3,559</b>	<b>△228</b>
現預金	451	625	△174	買掛債務	1,170	1,080	90
売上債権	1,293	1,319	△26	前受金	356	410	△53
たな卸資産	1,296	1,234	62	有利子負債	682	877	△195
その他	224	220	4	その他	1,124	1,193	△69
<b>固定資産</b>	<b>2,626</b>	<b>2,703</b>	<b>△77</b>	<b>純資産</b>	<b>2,558</b>	<b>2,542</b>	<b>17</b>
有形固定資産	2,134	2,165	△31	株主資本	2,173	2,118	55
無形固定資産	68	73	△5	評価・換算差額等	282	324	△42
投資その他の資産	424	465	△41	少数株主持分	104	99	5
合計	5,889	6,101	△212	合計	5,889	6,101	△212
				ネット有利子負債 比率	3.9%	4.1%	△0.2%
				自己資本比率	41.7%	40.0%	1.7%

# 連結キャッシュフロー計算書

区 分	2010/上	2009/上	単位:億円
			増減
<b>営業活動</b>	<b>144</b>	<b>232</b>	<b>△88</b>
税金等調整前四半期純利益	143	71	72
減価償却費	87	96	△9
運転資本	14	73	△59
その他(税金等)	△101	△7	△94
<b>投資活動</b>	<b>△96</b>	<b>△93</b>	<b>△3</b>
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	<b>48</b>	<b>139</b>	<b>△91</b>
<b>財務活動</b>	<b>△221</b>	<b>△171</b>	<b>△50</b>
<b>現金・現金同等物増減</b>	<b>△177</b>	<b>△23</b>	<b>△154</b>
現金・現金同等物期末残高	440	421	19

# 2010年度セグメント別業績予想

単位: 億円

- ポイント (1) 受注は船舶を除き、機械コンポーネント、精密機械で回復基調で推移するものの先行きは不透明。  
 (2) 売上は機械コンポーネント、精密、建機で回復。船舶は下期5隻の計画。  
 (3) 営業利益は機械コンポーネント、精密で回復。建機は為替動向、調達などにより上期比減。

		2009下期 実績	2010上期 実績	2010下期 予想	2010年度 予想	2009年度 実績
機械コンポーネント	受注高	320	372	398	770	614
	売上高	342	345	385	730	690
	営業利益	17	16	29	45	9
精密機械	受注高	633	699	785	1,485	1,061
	売上高	599	585	725	1,310	1,052
	営業利益	16	17	39	55	△26
建設機械	受注高	540	674	611	1,285	1,005
	売上高	520	638	652	1,290	1,027
	営業利益	9	31	19	50	6
産業機械	受注高	356	360	325	685	598
	売上高	398	328	341	670	856
	営業利益	66	54	31	85	142
船舶	受注高	15	9	36	45	43
	売上高	286	284	376	660	629
	営業利益	41	32	78	110	67
環境・プラント	受注高	331	280	365	645	626
	売上高	456	299	461	760	819
	営業利益	44	6	39	45	71
その他	受注高	43	43	42	85	87
	売上高	43	39	40	80	88
	営業利益	7	7	3	10	14
合計	受注高	2,237	2,438	2,562	5,000	4,034
	売上高	2,645	2,519	2,980	5,500	5,162
	営業利益	200	163	237	400	283

# 2010年度業績予想

## ■ ポイント

- (1) 上期営業利益の改善により営業利益の年度予想は上方修正。
- (2) 純利益の好転予想により、通期で5円から1円増配の6円配当へ。

単位：億円

	2010上期実績	2010下期予想	2010年度予想	2009年度実績
受注高	2,438	2,562	5,000	4,034
売上高	2,519	2,980	5,500	5,162
営業利益	163	237	400	283
営業利益率	6.5%	8.0%	7.3%	5.5%
経常利益	148	202	350	263
経常利益率	5.9%	6.8%	6.4%	5.1%
特別損益	△5	5	±0	△1
当期純利益	79	121	200	133
当期利益率	3.1%	4.1%	3.6%	2.6%
配当	0円	6円	6円	4円
配当性向	—	—	18.3%	18.2%
ROIC (税引後)	—	—	6.7%	4.8%
織込レート(ドル)	97円(実績)	80円	—	95円

# 第2部 経営戦略

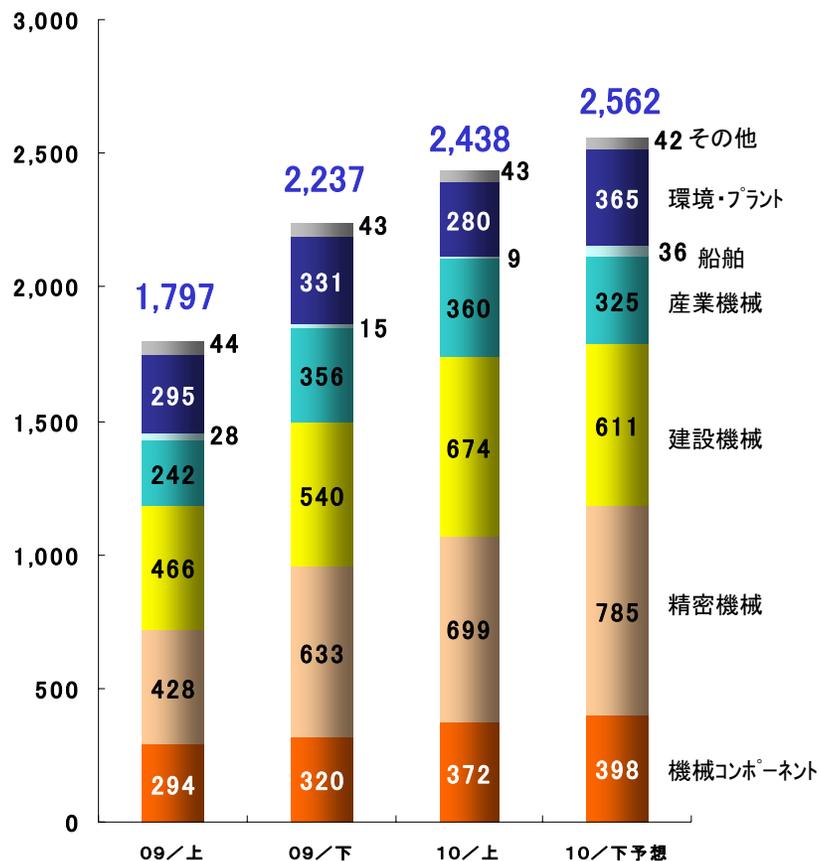
社長 中村 吉伸

# 受注・売上 半期推移

単位:億円

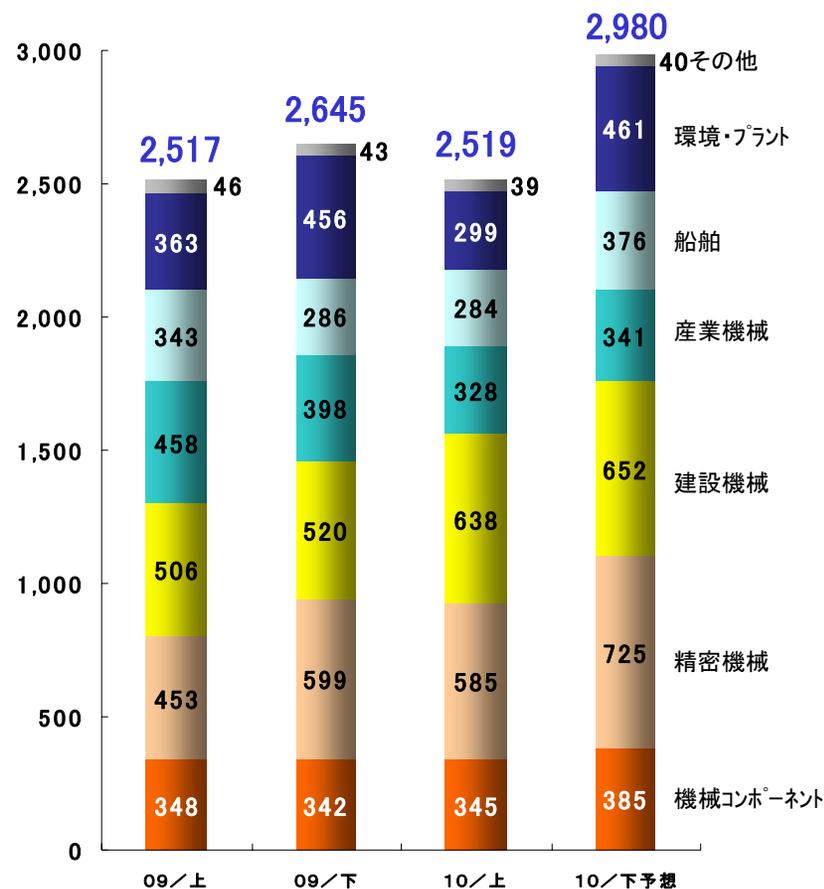
## 受注高

機械コンポーネント、精密機械は順調に回復するも、船舶は当面新造船の受注が厳しい。



## 売上高

機械コンポーネント、精密機械、建設機械で伸長。船舶は下期5隻売上見込み。



# 2010年度セグメント別受注環境

- 量産機械系では受注は概ね堅調なるも、世界の景気の先行きに不透明感がある。
- 重機械系の受注環境は一部を除いて依然厳しい状況が続く。

単位：億円

新セグメント	受注環境	2010年度受注金額		
		上期実績	下期予想	通期予想
機械コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内は景気回復を受け堅調に推移してきたが、円高の影響等で先行きは不透明。</li> <li>・海外では、環境・インフラ関連、資源・エネルギー関連を中心に大型・中型減速機が回復。中国での景況感は、拡大傾向ではあるものの一段落の様相。</li> </ul>	372	398	770
精密機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・射出成形機は、国内・中国・アジアで需要が減少傾向。北米、欧州では需要は回復基調なるも先行き不透明。</li> <li>・医療関連では、国内・海外で引合いが増加。</li> <li>・半導体は、市況悪化で設備投資の減少懸念。</li> </ul>	699	785	1,485
建設機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・油圧ショベルの上期は中国で春節需要が予想以上に拡大。下期は堅調に推移。</li> <li>・モバイルクレーンは米国での市況回復が進むも下期受注は上期並み。</li> </ul>	674	611	1,285
産業機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タービンは、アジアを中心にバイオマス発電が増加傾向。</li> <li>・クレーンは厳しい受注環境が継続。</li> </ul>	360	325	685
船舶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新造船はタンカー市況の低迷状態が続いているうえ、円高の影響で受注は厳しい状況。修理船は堅調。</li> </ul>	9	36	45
環境・プラント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイラは、国内・海外ともに厳しい受注環境が継続する。</li> <li>・水処理設備は官需が堅調。</li> <li>・日本スピンドルの受注は堅調に推移。</li> </ul>	280	365	645
その他	—	43	42	85
	合計	2,438	2,562	5,000

# 機械コンポーネント

## 変減速機:

10上期: 中国をはじめとする新興国市場のインフラ・資源関連で好調、また国内のロボット用精密減速機が回復により、受注は前年同期比増加。

10下期: 国内では、水処理向け等期待できる分野もあるが、全般的に価格競争激化が懸念される。海外では、引き続き中国および新興国で、インフラ・資源関連向けの中型・大型減速機で受注を伸ばす。唐山工場は、中国国内向け大型減速機工場として、生産を伸ばしていく。



# 精密機械

## プラスチック加工機械：

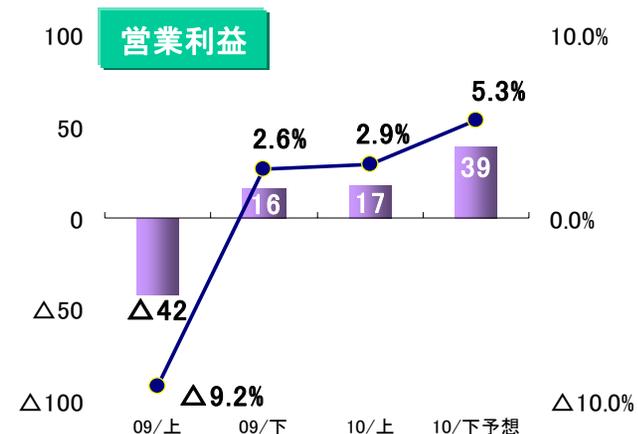
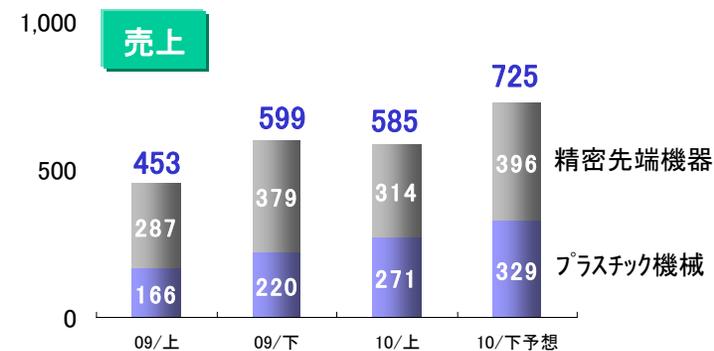
10上期：中国を中心とした北アジア市場で回復したことにより受注・売上で対前年同期比で増加。欧州事業も順調に回復している。

10下期：国内の総需要は7月以降で減少傾向となっている。今後、国内の需要は横ばい傾向で推移すると見るが、円高の影響もあり、競争激化が予想される。

## 精密先端機器：

10上期：国内で陽子線がん治療システムを受注。

10下期：陽子線がん治療システム案件の引合いが国内・海外で増加の動き、新規案件の受注を目指す。半導体は、国内市況悪化により設備投資の減少が懸念され、海外への展開を推進する。



# 建設機械

## ショベル・道路機械:

10上期: 油圧ショベル事業の中国市場での好調を受け、受注・売上が対前年比で増加。

10下期: 中国はじめ新興国での旺盛な需要に対応。中国唐山工場の生産を拡大し現地需要に対応。

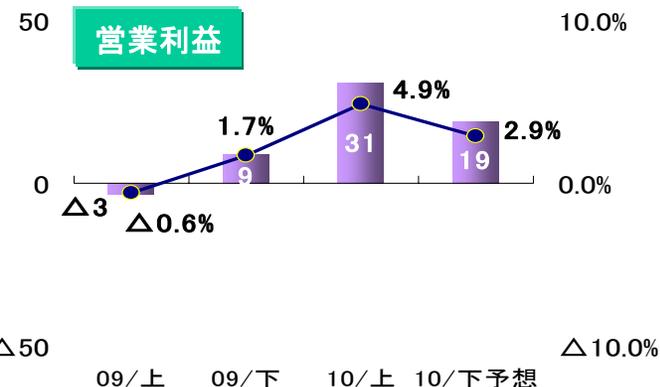
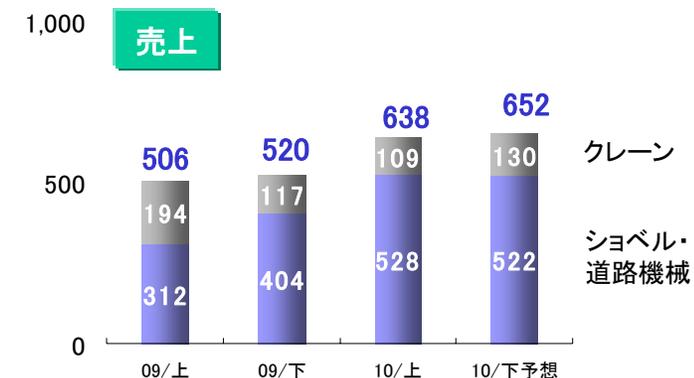
## クレーン:

10上期: 北米市場でのインフラ整備の需要減少により、受注・売上は低迷継続。

10下期: 引合いは少しずつ増加しているが、受注は上期並みを見込む。

## 営業利益:

為替、鋼材等の影響により油圧ショベルの下期売上分の利益率低下。



# 産業機械

## 鍛造プレス・製鉄機械:

10上期: 国内の受注環境は厳しく、上期の受注は計画には届かず。売上は受注残により計画どおり。

10下期: 鍛造プレスは、メーカーの海外進出に伴う回復が見込まれる。海外案件のフォローおよびアフターマーケットの事業を強化し、受注を確保する。

## 運搬機械:

10上期: 電力向け大型設備を受注。上期の受注・売上は計画どおりで推移。

10下期: 製鉄・港湾物流分野で営業を強化する。

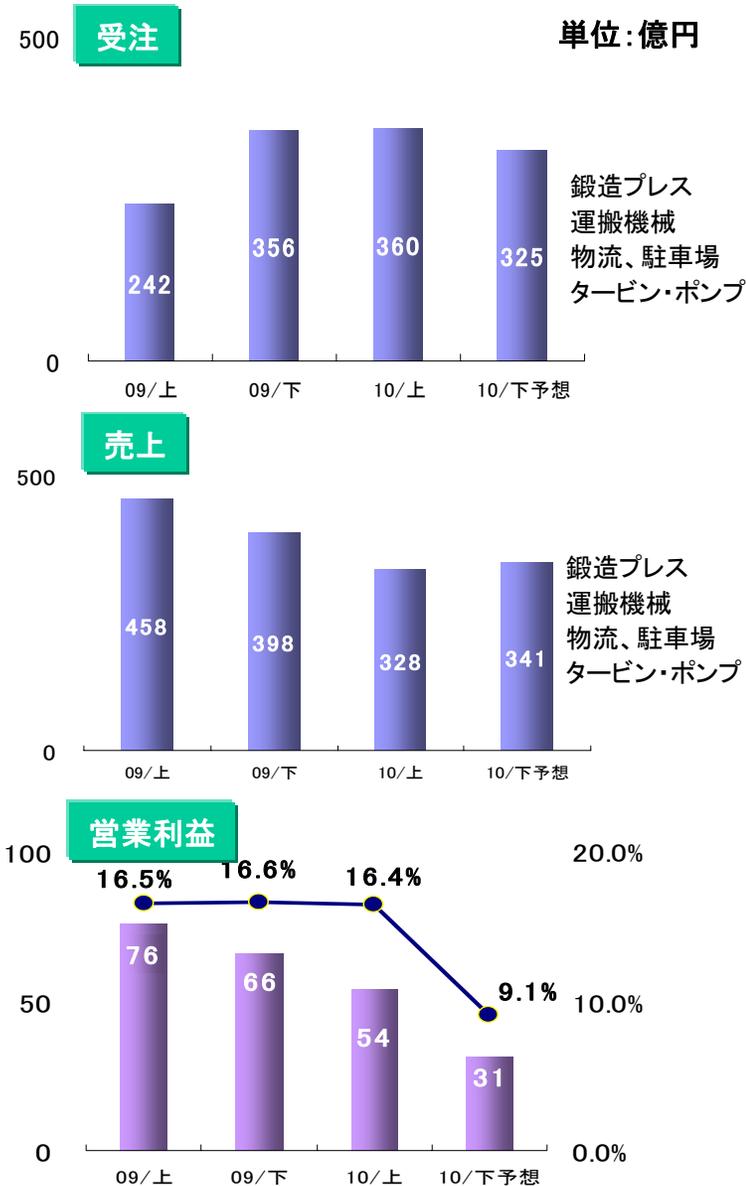
## タービン・ポンプ:

10上期: タービンは、北米・東南アジアなどでのバイオマス発電など資源・エネルギー関連で受注が好調、売上も堅調に推移した。ポンプは為替の影響もあり低調。

10下期: タービンは東南アジアでの営業強化をさらにすすめる。ポンプは韓国EPCから受注確保を目指す。

## 営業利益:

受注採算悪化等により下期売上分の利益率低下。



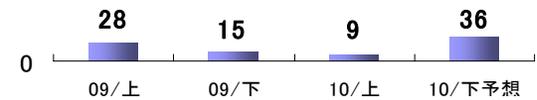
# 船舶

## 船舶:

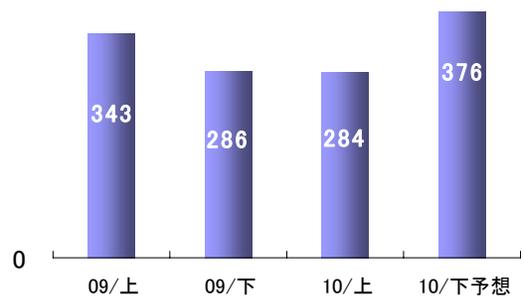
10上期: タンカー市況は依然回復せず、船主の様子見が継続しており、上期の新造船受注はゼロ。売上は4隻と前年同期比1隻減。修理船については受注が堅調。

10下期: タンカー市況低迷に加えて、円高の影響により受注環境は厳しい。売上計画は5隻、原材料高の影響も限定的であり利益は確保する。

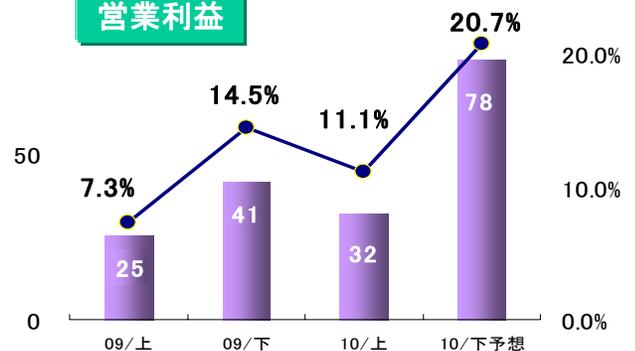
500 受注 単位:億円



500 売上



100 営業利益



# 環境・プラント

## エネルギープラント:

10上期: ボイラの受注はなく、全般的に受注は低調。

10下期: 09下期にシンガポールで受注したボイラの案件を足がかりに、東南アジアでの営業を継続して強化する。

## 水処理プラント:

10上期: 民間の排水処理設備は、大型案件の受注があった。上下水処理設備では、計画を上回る受注となった。

10下期: 引き続き民需案件での受注に注力し、営業活動を強化する。

## 鉄構機器:

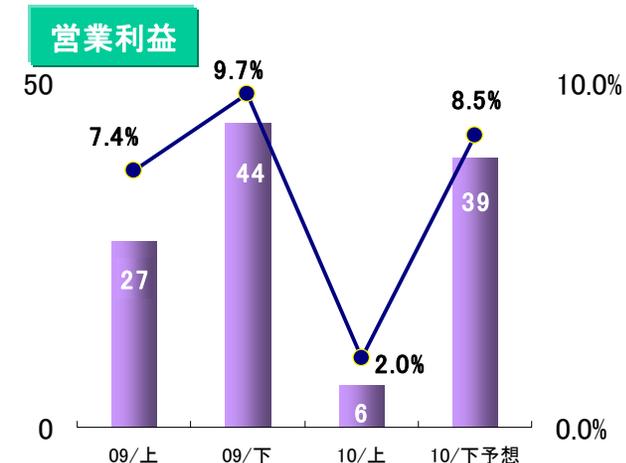
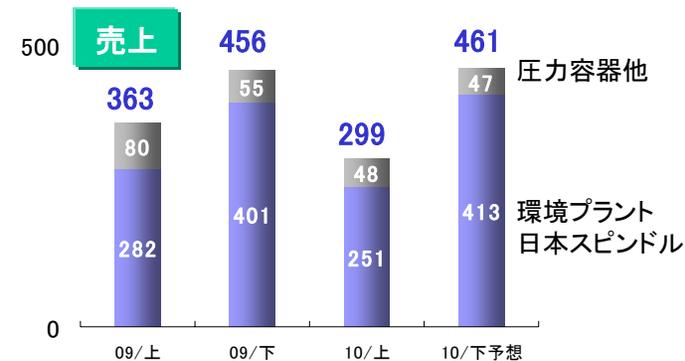
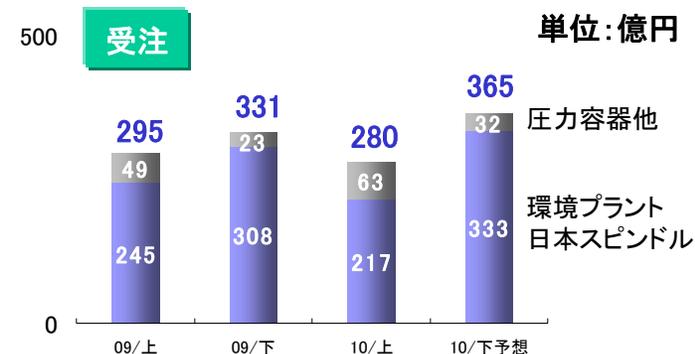
10上期: コークス炉機械で受注は好調。コークドラムは、円高の影響で受注環境は厳しい。

10下期: コークス炉機械では、引き続き老朽化設備の更新需要などを狙う。

## 日本スピンドル:

10上期: 受注環境は厳しいが、環境空調事業は高炉、電炉向けに好調。

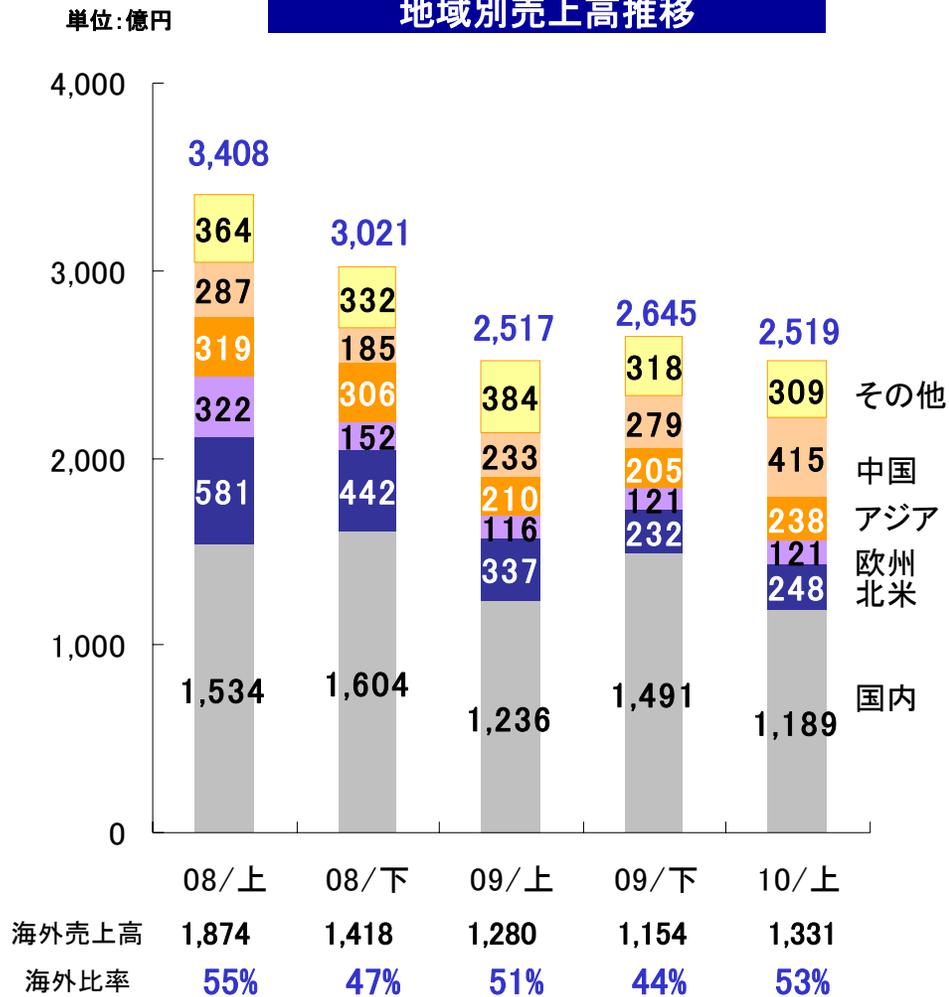
10下期: 新興国設備投資案件や高炉、電炉向け集塵機の営業活動を強化。食品機械は飲料向け等の増設案件などに注力。



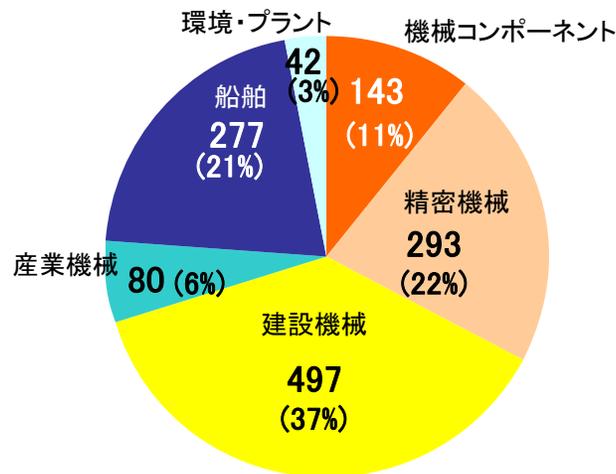
# 地域別売上高

単位:億円

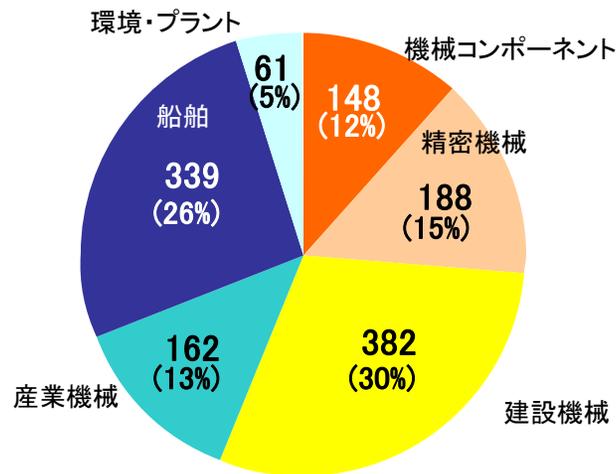
## 地域別売上高推移



## 10/上 セグメント別海外売上高



## 09/上 セグメント別海外売上高



# ベルギー・ハンセン社買収について

## ■ ポイント

- (1) 産業用ギヤボックスを製造・販売するハンセン・インダストリアル・トランスミッションズ(HIT)社に対する買収申し込みに関し、独占交渉権を獲得、23年3月までを交渉期間とする。
- (2) 買収提示価格は7,500万ユーロ(約90億円)。
- (3) HITは、欧州に加え、資源国である南アフリカ、豪州地域において強い販売チャネルを有し、当社の産業用ギヤボックス事業の拡大に寄与する。
- (4) HITは、縦型、大型のギヤボックスで強みを有しており、当社製品と補完関係にある。

## ■ HIT社 概要

社名	Hansen Industrial Transmissions NV		
所在地	ベルギー・アントワープ近郊 Edegem		
事業内容	産業用ギヤボックスの製造・販売		
資本金	700万ユーロ		
設立	2010年4月		
大株主	Hansen Transmissions International NV (100%)		
従業員数	730人		
連結業績(2010年3月期)	売上高:8,300万ユーロ	税前損益:△420万ユーロ	
	連結純資産(〃):6,800万ユーロ	連結総資産(〃):1億1,650万ユーロ	

# ブラジル工場建設について

## ■ ポイント

- (1) 南米地域への中大型減速機供給拠点として工場を建設する。
- (2) ブラジルは鉄鉱石をはじめとする資源需要、ワールドカップやオリンピック開催を控え中大型減速機の需要増にかかわるインフラ投資の拡大が期待できる。
- (3) ブラジルでの生産によりコスト競争力を上げることで販売拡大が可能。  
2015年に年間50億円の販売を目指す。

## ■ 会社概要

社名	Sumitomo Industrias Pesadas do Brasil Ltda.(仮称)
所在地	ブラジル連邦共和国 サンパウロ州 イトゥ市
資本金	約60億円
設備投資額	約52億円 (土地代含む)

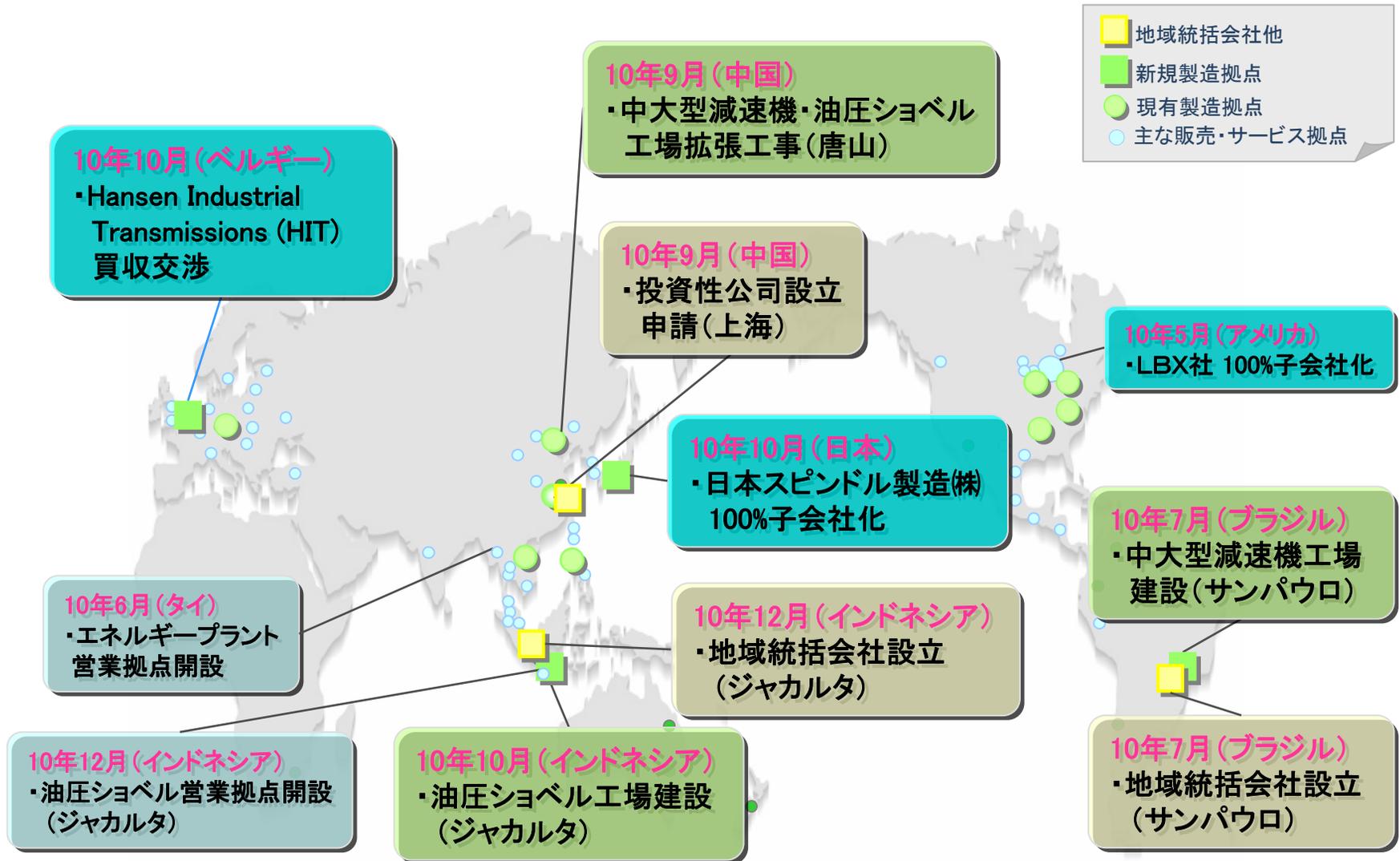
# 唐山工場拡張計画について

## ■ ポイント

総額106億円を投資し、2009年2月より生産を開始した中国・河北省・唐山市の中大型減速機および油圧ショベルの工場の生産能力を増強する。

	住友重機械(唐山)有限公司	住友建機(唐山)有限公司
事業内容	中大型減速機の製造・販売	油圧ショベルの製造・販売
今回投資額	35億円	71億円
投資内容	生産設備の増強、および建屋の増設、土地の取得	
現在の生産能力	500-700台/月	2000台/年
2012年度の生産能力	1250台/月	5000台/年
総投資額	82億円	122億円

# 事業拡大投資



# 経営方針

- ✓ 経営規律と財務規律を守り、持続的競争優位の  
確立を求め、健全な事業の発展を目指す
- ✓ 保有する優れた事業ポートフォリオと人材を活用して、  
如何なるときにも堅実に収益を確保する
- ✓ 時勢の変遷を見極め、攻めと守りの施策を  
バランス良く実践する

市場の動向を見据えて的確に手を打ち  
持続的成長と収益力の向上を目指す

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。  
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。